

間欠性外斜視における眼位変化に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間:2024年 3月 27日 ~ 2026年 12月 31日

〔研究課題〕

間欠性外斜視における眼位変化に関する研究

〔研究目的〕 間欠性外斜視は、外斜視と外斜位の状態が混在する斜視で、明確な発生機序は不明です。治療は外斜視時の斜視角に対して手術を行います。強固な融像性輻湊の影響で本来の斜視角が検出できず、手術による眼位コントロールが難しい場合があります。この対処法として一眼を1時間遮閉し融像除去眼位を測定する方法がありますので、今回、1時間遮閉前後の眼位を分析し、眼位変化が起りやすいタイプと変化が起りにくいタイプを検討します。また、外斜位から外斜視への変化には両眼視機能の変化が影響を与える可能性を示唆する研究報告がありますので、眼位変化の誘発要因についても同時に検討を行います。

〔研究意義〕

間欠性外斜視においては外斜位から外斜視に眼位が移行する契機や外斜視時の眼位の変動に関する要因が明らかではありませんので、これらを検討することによって、斜視手術による眼位コントロールが向上する可能性があると考えます。

〔対象・研究方法〕

対象は、2018年1月から2023年12月までの6年間に帝京大学医学部附属病院眼科にて間欠性外斜視に対する初回手術を行った症例を対象とし、斜視術前検査結果から眼位変化に関する項目を統計学的に分析します。

〔研究機関名〕

帝京大学医療技術学部視能矯正学科

〔個人情報の取り扱い〕

取り扱うデータは初診時年齢、視力、屈折度、眼球運動、斜視角、両眼視機能の所見とし、すべて匿名で処理します。データは可能な限り数値のみでインターネットと繋がっていない独立したコンピュータに電子データとして入力し、データファイルはパスワードを付け保管します。研究終了後、研究責任者は、保管の対象となる記録類一式を封かん用封筒に詰め、帝京大学臨床研究センター（以下、「TARC」）事務局に提出します。保管期間は研究終了から10年間とします。保管期間終了後、TARC事務局は情報漏えい・滅失・き損等に配慮して記録類一式を廃棄します。そのうち、TARC事務局は廃棄記録を作成し保管します。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者:氏名 山川 護
職名 帝京大学医療技術学部視能矯正学科助手
所属: 帝京大学医療技術学部視能矯正学科
住所:東京都板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1328 (代表)